



宮崎県立都城泉ヶ丘高等学校附属中学校学校だより 第24号(H22.11.25)

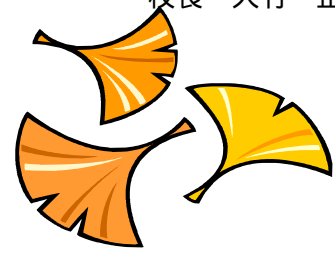
宮崎県都城市妻ヶ丘町27-15

TEL: 0986-23-0223 FAX: 0986-24-5884

校長 大竹 正純

しつ じつ ごう けん 質実剛健

「実力と気品をそなえ、たくましくあれ！」



恵下 斂先生

宮崎大学教育文化学部教授
理学博士

(えげ おさむ)

附属中は、自然科学探究に取り組んでいます。その一貫としまして、宮崎大学の恵下先生に出前授業をしていただきました。2回にわたり、「おもしろい理数世界」というテーマでわかりやすく、そしてインパクトのある授業を見せていただきました。子どもたちは、興味津々な様子で楽しく、真剣に取り組んでいました。内容は、1回目は「三平方(ピタゴラス)の定理」「円の面積を直角三角形に変えて」、2回目は「私が研究してきた原子と分子の世界」「関数と方程式について」「学会で使われる言葉は英語」などで、恵下先生にとっては本年度で宮崎大学をご退職になるといことで、ご自身から本校への出前授業を申し出たということでした。先生はご自身の40年にわたる教育の中で、「自然科学」という学問を生徒に何かしらでも伝えられればとの強い思いがあられ、その思いがひしひしと感ずられる授業実践でした。



本校は、一人ひとりの生徒が自らの課題について追究を深め、思考し、自分自身の考えとしてまとめたり発表したりする総合的な学習の時間を実践しています。以下の学習の流れを探究的な学習の流れの基本としています。

課題意識をもつ・課題を設定する。
情報の取り出し・収集
整理・分析・思考
まとめ・表現

中学校学習指導要領解説理科編によれば、「科学的に探究する能力の基礎」とは、「問題の把握、仮説の設定、資料の収集、実験による検証、結果の分析と解釈、結論の算出」などの「科学的に探究する活動」を通して育成される能力とされます。このことから、科学的に探究する能力は一挙に獲得できるものではなく、生徒が具体的な問題に取り組み、それらを解決していく活動を通

じて身につけていくものであると言えます。したがって目的意識をもって観察、実験を行ったり、得られたデータを分析して解釈したりといった経験を系統的・計画的にさせることが重要です。その際、観察、実験の結果をどのように分析すればよいのかなどといった「科学的に探究する活動」を構成する具体的な要素(ベーシックスキル)を確実に身に付けさせることが大切です。

宮崎大学医学部 片岡先生の出前授業から

～今、ガン患者がすごく増えてきているので、将来医療関係の仕事につきたいので、とても興味深いものとなりました。ガンは食べ物からもなるといわれたので、本当に身近な病気なんだとびっくりしました。死につながるの怖いのです。しかも、ガン細胞は10年以上前から～不老不死だということを知りました。～今日、教わったことを生かしていけたらなあと思います。

入江 彩花

宮崎大学医学部 國武先生の出前授業から

～その中で心に残った事は二つあります。1つ目は神経1つ1つの働きです。神経1つの中で興奮という+と-を入れ替えるポンプの働きが1000分の1秒で行われていた事に驚きました。～2つ目は、神経に刺激を与えた事で手足が震えていた人が歩けるまでに回復した事です。～もし、1つ1つの神経の働きが分かれば、体の異常を治せると思います。将来こういう事を研究したいです。

西川 竜星

宮崎大学医学部 片岡先生の出前授業から

～まず、細胞の数についてです。私は、100億ぐらいだと思っていたけれど、60兆もあると聞いてびっくりしました。～次に、細胞の働きです。細胞には、自らDNAを切断して自殺することができるという、人間と同じなんだなあと思いました。～一番びっくりしたのは、ガン細胞についてです。ガン細胞はもともとは、普通の細胞で不要になったものが、ガン細胞になるそうです。大井 美怜

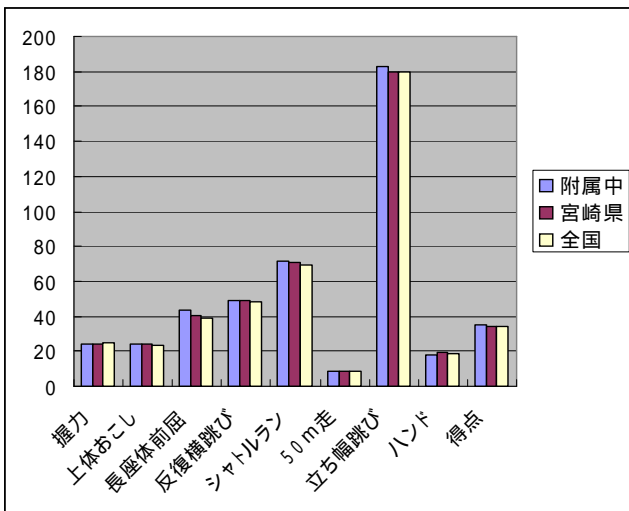
宮崎大学医学部 國武先生の出前授業から

～僕が一番思ったのは、人間の脳がとても複雑だということです。自分の脳を作った僕自身分からないような複雑なしくみでこんなにもよくできているなんて思いもしませんでした。～特にびっくりしたことは、人間の脳細胞で電池の約20分の1の電気が流れていることです。しかもその時間なんと1ミリ秒と1000分の1秒で伝わりと驚きの数字でした。

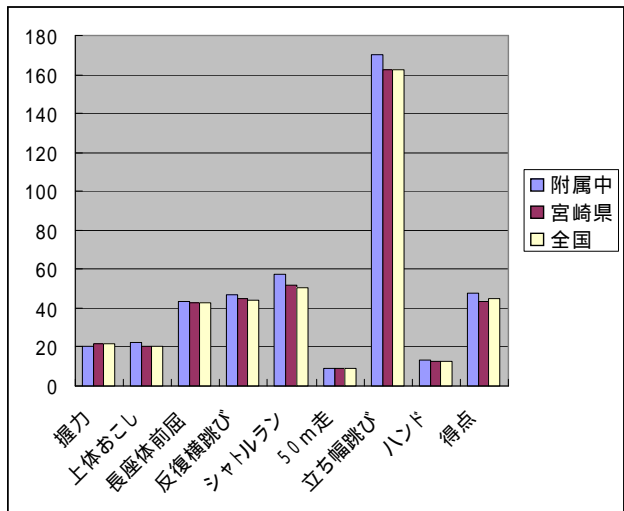
榮福 和希

新体力テストの結果が出ました！

附中生の体力は宮崎県、全国を上回る！



(1年生男子)



(1年生女子)

例年4月から5月にかけて保健体育科で体力テストを行っています。

今後、進路実現に向けてしっかり学習するためにも、将来社会人として活躍するためにも、そして、生き甲斐を持って元気に生きていくいくためにも体力は必要で、生きる力の源になるものです。

ですから、本校でも体力テストは継続しながら、分析し何が足りないのかを研究しているところです。

上記のグラフは、今年度の体力テストの結果です。握力やハンドボール投げ、50m走などに若干県・全国を下回っていますが、全体的な平均は男女とも、宮崎県・全国を上回っています。今後とも、部活動など継続的に出来る運動を見つけていく必要があると考えます。

【平成22年度 体力賞 受賞者】

尾前 勇向・入江彩花・大井美怜・興侶七海・橋口芳菜・藤岡ゆい・益留菜央・渡邊美波